

まるおかしょうあと 2. 丸岡城跡

所在地：坂井市丸岡町霞地係

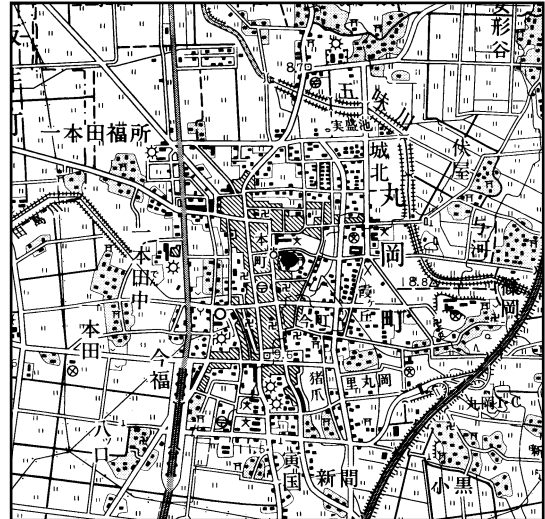
調査原因：範囲確認

調査期間：平成 24 年 2 月 6 日～3 月 2 日

調査主体：坂井市教育委員会

調査面積：

時代：近世～現代



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 平成 24 年度から着手する丸岡城天守防災設備改修工事に先立って調査を実施しました。調査は天守の建つ広場、天守の南側に 3 ヶ所のトレンチを設定しました。

遺構と遺物

(1) 天守前広場 天守北側の登坂路から天守東側の石段の下あたりまで、幅 1m のトレンチを L 型に配置しました。砂利敷きを除去したすぐ下に遺構面を確認しました。深い落ち込みとピット（柱穴？）6 基を確認しました。落ち込みは深さが約 1.5m、幅は 6m で北から緩やかに深くっていました。限られた範囲のため全体の形状は不明です。遺物は石瓦がほとんどで、時期を決定できる土器は確認できませんでした。

トレンチの南端、天守に登る石段の下で、石積を確認しました。石積は南側を表として積まれていました。

(2) 天守南東（井戸の横）

最も深いところでは 160cm 下で地山を確認しました。北端から約 2m の地点で 60cm 程度落ち込み、落ち込みのカタは岩盤の石が積まれていました。石の下に赤褐色の土が突き固められており、その下に黒色土層を挟んで黄褐色土が突き固められていました。黄褐色土の下が赤色の岩盤で、ピットを 4 基確認しました。ピットのひとつからは明銭と土器片が出土しています。このことから岩盤まで掘削されたのは明銭が流通していた時期で、その上の黄褐色土層で一度整地し、その後赤褐色土層でもう一度整地して石を積んでいると思われます。

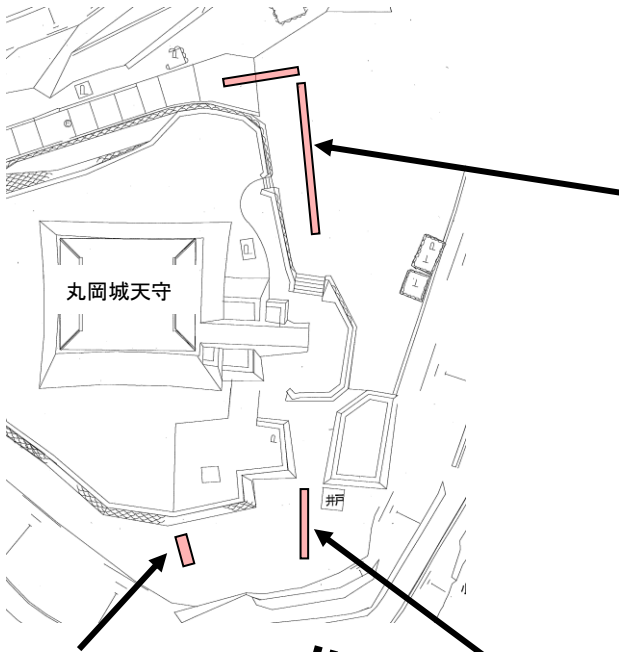
(3) 天守南トレンチ

丸い礫が多数混ざっており、石瓦片も多数出土しています。地表から約 60cm 下で石列がありました。石列の下に突き固めた層があり、その下に地山面がありました。石列の裏側は岩盤の石がありました。

まとめ

今回の調査により、近代以降に城山の形状は大きく改変されましたが、遺構が良好に残されていることがわかりました。今後の調査によってこれらの分布状況を把握し、保存に役立てていきたいと考えます。

(堤 徹也)



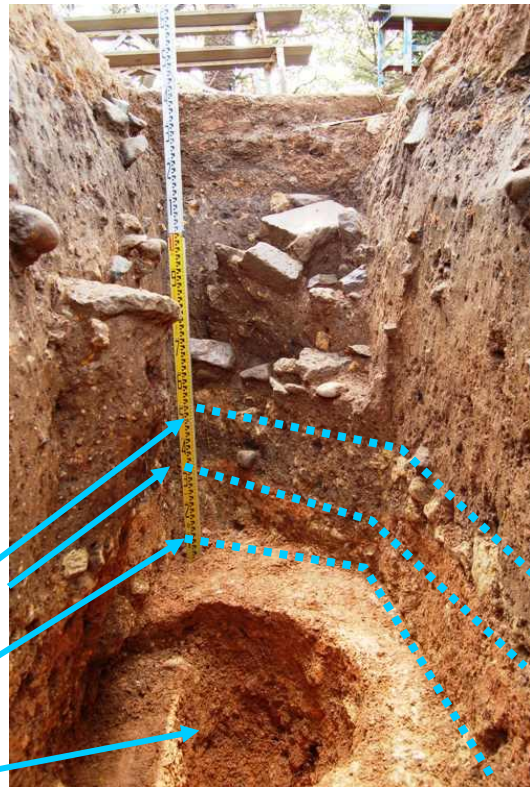
天守前広場

天守下の石垣



発見された石列

天守南トレンチ



天守南東（井戸の横）

整地層（1）

整地層（2）

地山面

古銭出土



← 出土した古銭